

平成 24 年度公益社団法人第 4 回理事会議事録

公益社団法人日本地球惑星科学連合

1. 開催日時 平成 24 年 7 月 31 日 (火)
午後 1 時 30 分から午後 7 時 00 分
2. 開始場所 東京大学理学部 1 号館 843 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)
3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 16 名 (定足数 11 名 会議成立)
出席監事 2 名
オブザーバー 6 名
4. 議長 理事 津田 敏隆
5. 出席役員
理事 津田 敏隆
理事 川幡 穂高
理事 木村 学
理事 中村 正人
理事 ウォリス サイモン
理事 小口 高
理事 奥村 晃史
理事 北 和之
理事 古村 孝志
理事 佐藤 薫
理事 杉田 倫明
理事 田近 英一
理事 成瀬 元
理事 畠山 正恒
理事 松本 淳
理事 渡邊誠一郎
監事 鈴木 善和
監事 松浦 充宏

6. 出席オブザーバー

固体地球科学セクションプレジデント	大谷 栄治
宇宙惑星科学セクションプレジデント	大村 善治
宇宙惑星科学セクション幹事	小嶋 浩嗣
地球人間圏科学セクション幹事	島津 弘
キャリア支援委員会副委員長	市原 美恵
大会運営委員会プログラム局局长	河宮三知生

(2013年プログラム委員長)

午後1時30分、理事の定数に足る出席があったので、会長津田敏隆は議長席に着き、開会を宣言した。

議事に入る前に木村前会長挨拶、及び会議資料の確認を行った。会長より追加資料をもとに、(1) 理事会とセクションとの関係の明確化 (2) ジャーナルの発行推進 (3) 国際化 (4) 会費・登録費の見直し、等、現在連合が直面していると思われる課題について説明があり、意見交換が行われた。

また、理事会とセクションとの関係の明確化について、連合創設時の理念として、連合組織の運営は理事会、学術推進・サイエンスの振興はセクションの任務として組織作りをしたが、サイエンスセクションの活動が十分であるとはいえず、さらなる成長が必要である。ユニオンサイエンスボードの設定、登録区分「地球惑星科学総合」の取り扱いなど明確にしていかなければならない点があると思われるため、今後の組織の強化を目的に、これまでの経営企画のメンバーにセクション関係者を加えて、連合全体の方針など検討する場を設定することにする。

7. 報告事項

(1) 2012年連合大会報告 (谷上事務局長) 資料 P1-4

財務委員長西理事に代わり、谷上事務局長より6月末現在の大会収支、及び連合財務状況について、資料をもとに報告が行われた。大会収入は、70,171,800円(対予算3,458,300円増)、支出は、31,933,468円(ほぼ予算どおり)であった。3月16日の理事会において、西財務委員用より報告があったように、今期は予算に対して余裕(増収・予算未使用等)が見込まれた場合には、予算において2回分の印刷代のみ計上されているJGLの発行費用に優先的に充当されることになっている旨も報告された。詳細の振り分けは、別途財務委員会での検討を待ってからの執行となることが確認された。

大会収入が大会以外の活動に使用する状況については、当連合は、連合大会開催を含め各活動が独立した収支で運営されているのではなく、全活動が一つの「地球惑星科学の進捗を目的とした」公益目的事業の中で行われ、財務処理もこれに準じている。この方針は公益法人申請時において、内閣府からの指導のもと確認されている内容であることの確認がなされた。

(2) 連合規則の整備について（古村理事）資料 P5

古村理事（総務委員長）より、2011年4月27日に公表した「34学会44万人声明」に対する連合への問い合わせと対応について、経緯が報告された。

問い合わせ内容は、「34学会44万人声明」の会員への効力と、発信後の連合の取り組み状況、特に「国内および国際的な原発災害風評被害を無くすため海外学会とも協力して正確な情報を発信します」に関する対応についてであった。これを受け、理事会では、メール会議による意見交換、前会長・総務委員長を中心に回答内容をとりまとめ、7月27日、総務委員長名でメール回答した。

なお、回答では、「当該声明は、東日本大震災地という未曾有の災害の発生を受けて、当連合も参画する理工系学協会連絡会（日本学術会議第三部主催）の理工系学会長の連名で、各学会が努力すべき方向性を提示したものであり、それは、会長指導による、その後の各学協会の取り組みへの期待が込められた内容ではあるが、各学協会の具体的な活動や、会員個人の意志に基づく自由な研究活動を拘束するものではなく、仮に、声明の内容に関わる会員個々人の行動や発言があったとしても、声明を発表した理工系学協会連絡会の理工系学会、あるいは当連合はそれに対して責任を持つものではない。」ことを述べた。今後、本件に対してさらなる対応が必要な場合は、総務委員長、前会長、現会長を中心に、理事会で行うこととする。

(3) 連合規則の整備について（古村理事）資料 P5

古村理事より、連合の堅実な運営と活動の円滑化を目的に、諸規則の整備を進める方針が示された。計画中のものとして、共催・協賛・講演に関する規則、公印取り扱い規則、謝金規則、旅費規則等があり、今後準備整備する予定が報告された。

8. 審議事項

第1号議案 会員入会承認の件（古村理事）資料 P6-16

定款第8条2項の会員の入会の定めに従い、新規入会者を承認した。今後も、理事会の開催毎に、Webでの会員入会申し込み登録に対してその可否を決定し、登録日に遡って入会を承認することを確認した。

第2号議案 後援等の承認の件（古村理事）資料 P17

これまで共催、共催、後援依頼に関して総務委員会で承認してきたが、理事会での情報共有と周知を図るために、今後は理事会メールでの確認と、理事会での報告を行うこととする。これに従い、共催、共催、後援依頼の承認済3件を含め、手続中2件と申請予定1件について報告があった。なお、サポートレターについてはこれまで2件承認したが、本件の扱い方針は第4号議案で審議することとする。

第3号議案 連合共催協賛後援規則案（古村理事） P18-22

「公益社団法人日本地球惑星科学連合の共催、協賛、及び後援に関する規則」の制定について規則案が示された。審議の結果、概ね賛成が得られたことから、今後字句の修正等を経て規則を制定することが満場一致で承認された。

第4号議案 声明・サポートレター等対応方針について（古村理事）資料 P23

連合からの声明の発表やサポートレター等の発行に関する審議の手順について、配布資料をもとに提案があった。これらの発行は、関連する分野のセクションプレジデントのコメントを参考に、理事会審議事項とすること。承認は利害関係のある理事を除く出席理事の過半数の賛成によるものとするのが満場一致で承認された。声明等の発行者は、会長のほかセクションプレジデントや委員長名で出すこともできる。

第5号議案 研究開発戦略センターとの連携・協力について（古村理事）資料 P24-25

研究開発戦略センターからの連携・協力の依頼について説明があり、満場一致で承認された。

第6号議案 IGC(International Geographical Congress)への支援について

(ウォリス理事) 資料 P26-28

寄付金という名目で連合から支出をしたことはないが、地理関係の国際会議としては最大なもので、連合の宣伝をするよい機会なので、展示物を用意し、地球人間圏セクションのセクション経費より輸送料等の名目として経費を負担する方針で松本・奥村両理事に対応をお願いすることになった。

第7号議案 連合大会予稿の利用規則について（北理事）資料 P29-36

連合大会の予稿の著作権に関して、著作権規則に明記されていないので、著作権は日本地球惑星科学連合にあることを明記する必要があることが説明された。第三者が勝手なことができないようにすることが目的なので、著作権規則の第3条-5 「本法人への著作権譲渡は、掲載されることが決定された後、別途定める著作権譲渡書に署名し、～」の「署名し」の部分を「同意し」に変更することなど、規則の字句訂正等を総務委員長の古村理事が行うことが満場一致で確認された。

第8号議案 委員会選出方法及びメンバー構成について（畠山理事）資料 P37

教育問題担当委員会のメンバーに非会員が多数いる。連合の会員でない人に依頼状を出してよいのかということから、メンバーの選出方法について審議することになった。定款上は会員でなくてもよいが、委員会規則上では正会員でなければならないと規定がある。各学協会より選出するということからこのような事態になっていることが考えられるので、

学協会からだけではなく地学関係の学部のある大学から選出してもらうなど高大接続も視野に入れ渡邊理事と畠山理事が選出方法について話し合い、次回の理事会で報告し、継続して審議することになった。

第9号議案 2013年大会方針・概要 資料 P38-47

大会プログラムについて（河宮プログラム局長）

セッションの数は増やす方向だが、同じようなセッションはまとめるように促していく方針である。昨年度、国際セッションはポスターのないセッションなどもあった為、最低限オーラルの半分以上のポスター発表も確保するよう調整する。又、初日の一コマ目、最終日の四コマ目は設定しない。ポスターセッションの3分間口頭発表は15分の枠を3分×5に限定しないでフレキシブルに対応できるようにシステムを変更することを検討することになった。新聞プログラムの基本情報に関してはA4冊子にして受付時に手渡し各日の開催内容は新聞形式のものを日毎に配布する、英文プログラムは全員には不要であるなど、大会運営委員会で検討し、次回の理事会で審議することが確認された。

参加登録費見直しについて（中村理事）

値上げをすると参加者が減ることが想定されるので目に見える形のサービス向上をすることが値上げには不可欠である。9月3日のセッション提案開始に間に合うように逆算して見直しの提案をしたので根拠が明確でなかった為、2013年大会の参加料、投稿料の発表を10月にずらすことも含め、タスクフォース（会長・副会長・大会運営委員長・副委員長、総務委員長・財務委員長・プログラム局局長）で8月末までに話し合いを持ち、次回の理事会で引き続き審議することが確認された。

第10号議案 国際対応方針について（津田理事） 資料 P48-49

AOGSの札幌大会に連合としてどうかかわるかは津田理事・中村理事がAOGS2012の席で話を進めてくることになった。8月14日18:00から行われるCouncil meetingにAOGSに参加する川幡理事・大谷理事・松本理事・大村理事も出来れば出席し、話し合いに参加することになった。

第11号議案 ジャーナルについて（川幡理事） 資料 P50-55

7月2日に京都大学で行われたEPS関連5学会の会議でJpGUとしてopen-accessのe-journalを発行することが確認されたことが報告された。8月9日に東京大学で第3回科研費成果公開促進費対応臨時委員会が開催され、各学協会に説明を行う予定である。

その他男女共同参画委員会より来年度の大会でもアンケートを行うことが中村理事より提案され、満場一致で承認された。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後 7 時 00 分)
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席議事は次に記名・
押印する。(捺印欄配布時省略)

平成 24 年 7 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 4 回理事会

出席理事	津田	敏隆	印
出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	高	印
出席理事	奥村	晃史	印
出席理事	北	和之	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	佐藤	薫	印
出席理事	杉田	倫明	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	畠山	正恒	印
出席理事	松本	淳	印

出席理事

渡邊 誠一郎

印